

UNICEFへの緊急無償支援：新規プロジェクト開始式典 シリア難民キャンプ内における人命救助に関わる保健及び栄養支援

2018年7月30日、柳駐ヨルダン大使は、日本の緊急無償支援（100万USD）により、UNICEFがシリア難民キャンプ（アズラック及びザアタリ・キャンプ）内で実施する「人命救助に関わる保健・栄養支援」プロジェクトの開始式のためアズラック・キャンプを訪問しました。柳大使は、最初にアズラック・シリア難民キャンプ内唯一の病院の中にある小児科病棟を視察し、日本からの支援により、強化された小児科において、キャンプ内での生後一年以内の新生児の死亡率が大幅に減少してきている旨病院関係者からの説明を受けました。

柳大使からは、ヨルダンが大量のシリア難民を受け入れていること及びUNICEFのヨルダンでの活動を評価しており、シリア危機以降のヨルダンでのUNICEFの活動に対する支援は合計で3千万ドル以上となることを紹介しつつ、本日、実際の現場で日本の支援が人々のために役立っている状況を確認できて嬉しい、今後も引き続き支援を継続していきたい旨述べました。

ジェンキンスUNICEF代表は、今回の緊急無償支援により、多くの新生児や出産後の母親に必要な保健・栄養支援を継続することができている旨説明し、日本の支援に対して感謝の意を表しました。また多くの病院関係者からも日本の支援に感謝する声が聞かれました。

柳大使は、その後、日本の支援によりキャンプ内でUNICEFが運営しているマカニセンター（課外活動のための施設）、クリニック、及び給水施設も視察しました。

式典での柳大使による挨拶



アズラックキャンプ内病院の小児科病棟入り口



アズラック・キャンプ内病院関係者らとの記念撮影



マカニ・センターの子供たちとの写真撮影

